

## たんぽぽ研修会アンケート集計表

＜日 時＞ 令和7年10月29日（水） 18:00～19:30

＜場 所＞ 寒河江市ハートフルセンター 多目的ホール

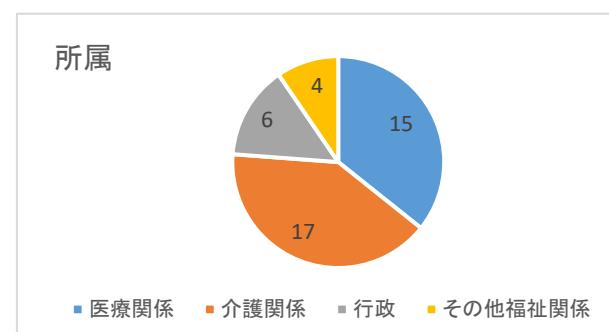
＜テーマ＞ 医療と介護がともに歩む支援のかたち  
～病院と老健の実践から学ぶ連携のヒント～

◇山形県立河北病院 地域医療連携室医長 羽角 勇紀 氏  
◇介護老人保健施設 紅寿の里  
主任介護相談員兼介護支援専門員 松田 聰子 氏  
主任看護師 半澤 早苗 氏

＜参加者数＞ 56人（申込者数44人、欠席者2人、当日参加者14人）

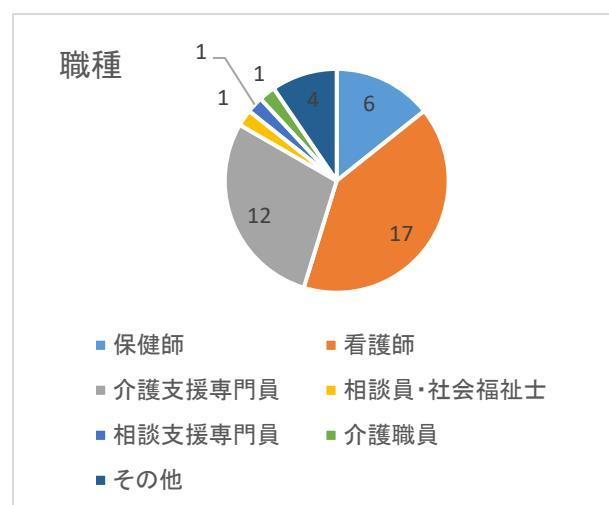
### 1 アンケート回答者 (42人)

所属	人数
医療関係	15
介護関係	17
行政	6
その他福祉関係	4
合 計	42



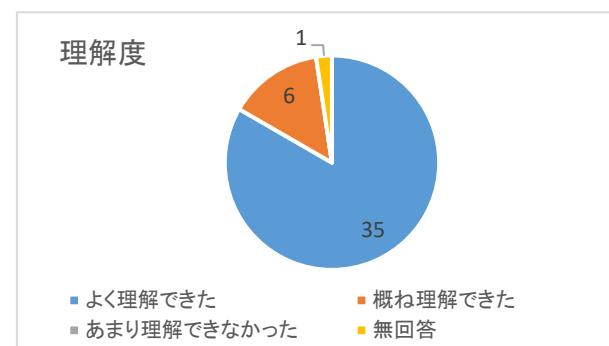
### 2 職種

職種	人数
保健師	6
看護師	17
介護支援専門員	12
相談員・社会福祉士	1
相談支援専門員	1
介護職員	1
その他	4
合 計	42



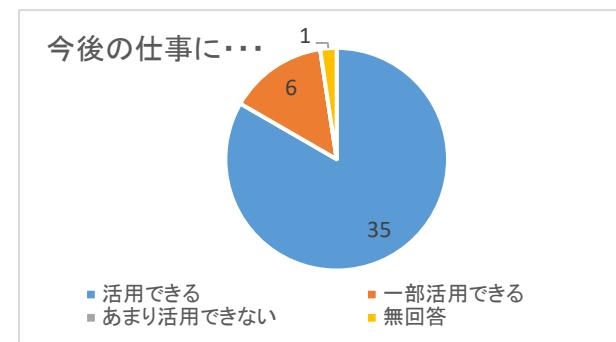
### 3 理解度

よく理解できた	35
概ね理解できた	6
あまり理解できなかつた	0
無回答	1
合 計	42



#### 4 研修内容の貢献度

今後の仕事に…	
活用できる	35
一部活用できる	6
あまり活用できない	0
無回答	1
合 計	42



#### 5 本日の研修会について、感想をご自由にお書きください。

- 在宅支援の必要性が今後どんどん増して来ていることが分かりました。それに当たって医療の在り方も少しずつ変わっていく必要性を感じました。 (医療)
- 訪問看護師です。病院、介護施設でも働いてきた中で、やはり A C P と多職種連携は重要だと肌で感じてきました。今回、改めて在宅でどう支援していくのか、考えるキッカケとなりました。 (医療)
- A C P について、施設と病院の連携もここまで密に行っているという実際を知り、素晴らしいと思いました。今回学んだことを自分の職場に活かしていきたいです。 (医療)
- 老健に入所しつつ在宅へ何度か戻るということができるとは全然知らなかつたです。すごく良いことで理想的だなあと思って聞いていました。自分の親を考えた時、そうあってほしいなと思いました。  
サブアキュート入院とか統合ケアとか初めて聞く言葉もあり勉強になりました。 (介護)
- 老健入所後の生活についてなかなか知ることができないので、紅寿の里さんと河北病院の先生方との連携について学ぶことができました。 (介護)
- 河北病院総合診療科、心強くいつもお世話になっております。地域で住民に関わる者として、どこでどう暮らしていきたいか、会話の中から想いの欠片を集めていきたいと思います。 (行政)
- まだまだ医師と介護職員の間に壁を感じています。生活と医療を切り外さない支援の実現はまだ難しそうです。ありがとうございました。 (その他福祉)
- 紅寿の里のスタッフの皆様の、看取りの取り組みや素直なお気持ちも伺えて良かったです。多職種が一同に集結、結束できる病院・老健でできることが在宅ではやはり難しい。難しいけれど、集まれた職種や親族、関係者の中でできること、できないことを考えたり、言葉を発しながら在宅で取り組んでいきたいと思いました。 (上記以外)

#### 6 今回のテーマに限らず日頃課題に感じていること、今後希望するテーマなどあればお書きください。

- 独居、生活保護、難病、小児・・・少し特殊なケースでのA C P や協働について聞いたみたいです。 (医療)
- H P 一施設一自宅、H P 一自宅の連携、訪問看護に関して (医療)

